審査の結果の要旨

論文提出者氏名　胡　昂

中国に住むチベット族の人口は500万人余りであるが、その居住域はチベット自治区だけでなく、雲南、四川、青海、甘粛省などの広範な地域に及び、中国全土の1/4を占めるといわれている。チベット文化はチベット仏教（ラマ教）の影響が強く、漢民族とは全く異なる文化圏を形成している。宗教、社会、風俗、美術、工芸等に関する研究はこれまでも多いが、建築に関する研究は、宮殿や寺院、あるいは大邸宅等に関するものが若干あるにすぎず、民家を対象としたものは写真集を除いてほとんど皆無である。

本研究は、チベット族の民家を対象に、その空間的な特質を記述し、その生成原理を探るもので、建築の素材や構法、あるいは生産や生活の様態、さらには宗教心や空間概念といった側面までをも考慮しつつ分析を行ない、その空間の生成則や配列則を明らかにすることを目的にしている。建築空間に内包されているルールと実空間との対応を実証的に解明するために、これまでの実地調査と文献から得られたデータを基に、チベット族の民家のデータベースを作成している。収録されている民家は189事例であるが、その中から、商家や大邸宅といった特殊な用途のものを除いた150事例を研究対象にしている。

チベット族は、農業と牧畜を生業にするものが多いが、そうした民家では、庭あるいはテラスといった屋外あるいは半屋外の空間が生産の場として重要で、その在り方が空間全体の骨格を決定している。１階建てであるか、あるいは２階建て以上であるかということも重要で、この相違は、空間要素を平面的に連結するのか、あるいは、重層的に連結するのかという空間の構成方法に直接的に関係している。本論文では、基本的に１階建てと２階建て以上に別けて、それぞれの空間構成の特性を論じている。

本論文は、序と第１章〜第６章、および付録からなる。

序では、研究の背景と目的について述べ、次いで、研究対象となる地域を明らかにしている。また、研究方法として、可能な限り数理的な手法を援用して、客観性を持たせるように留意したことを説明している。

第１章では、チベット族の民家に対する既往研究を歴史的に回顧し、続いて、分析に用いるグラフ理論を概説している。また、研究に先立ち筆者が行った実地調査の概要と、民家のデータベースの作成手法について解説している。

第２章では、チベット族の民家の歴史的な変遷と、地域的な差異を概観した上で、民家の構成要素について、その機能と特色を説明している。

第３章では、基本的な空間要素について、その選択理由と定義を述べている。次いで、庭、露台、門庁、廊、台所兼寝室、台所、寝室、貯蔵室、仏堂、客間、家畜間、草料室の12の空間要素について、出現頻度や出現順序等の基本的な統計量を求めている。

第４章では、基本的な空間要素がどのような配列則になっているのかを調べるために、空間要素の隣接関係をグラフで表現し、その序列を１階建てと２階建てに分けて分析し、１階建てでは３つの、２階建てでは７つの基本系列にまとめ、その特性について論じている。

第５章では、先ず、チベット族の民家の構成原理を、民間の職人が用いる形態的な分類方法に基づいて説明し、次いで、宗教や社会、生活習慣などと空間要素の基本的な配列との対応について言及している。また、外部の空間要素としての庭と露台、連結的空間要素としての門庁と廊、生活の空間要素としての台所兼寝室について詳しく分析し、その結果に基づいて１階建てと２階建てのそれぞれについて平面構成の生成則を求め、それらが実際に事例として存在するかをグラフの隣接関係から調べ、実例が存在するものをルールとして抽出している。このルールを詳細に分析し、１階建てと２階建てのそれぞれについて、連結する要素である門庁と廊の有無に基づく４タイプに分類して、それぞれの特性について論じている。

第６章では、章毎にまとめを行った後に論文全体のまとめとして、チベット族の民家の生成則が連結的な空間要素を媒介として整理できたことを挙げている。また、本論文の意義として、民家の空間構成を記述できたことに加えて、伝統的な建築の保全や保護にもその成果を活用できるとしている。最後に、今後の課題についてまとめている。
付録は、データベースの全資料と、分析で用いた図版や表の原図で、これに電算機のプログラムを付加している。

以上要するに、本論文は、これまで詳細な研究が行われていなかったチベット族の民家に関して、ほぼ、現在、入手可能な資料を網羅する形でデータベースを作成し、その空間構成を科学的な手続きに基づいて分析したもので、この地域の民家に関する建築計画学的な研究のさきがけとなるものである。分析の手法として、基本的な空間要素をグラフ化してその隣接関係から空間の組成を読み取る手法をとっているが、グラフ化に伴い捨象される広さや高さ等の次元が問題視されるかも知れないが、チベット族の民家の空間は、素材や構法の制約からその大きさは比較的均一で、むしろ、全体的な組成を把握する上では、次元を減らすことが有利に働いていると考えられる。
チベット族は広範な地域に分布していて、それぞれの土地の気候や風土により、その民家の外観は異なる様相を呈しているが、その空間の基本的な構成原理は同一で、極めて単純な原則の下に造られていることが本研究により明らかになっている。この事実を客観的な手続きの下に示したことは、建築計画学における新たな知見であると共に、同地域の将来的な住環境、住文化を設計する上でも貴重な資料となり得るもので、その意義は極めて大きい。
よって、本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。